

関税局長からのメッセージ



田島 淳志
関税局長

税関は、令和4年(2022年)に設立150周年を迎えます。明治開国以来長きにわたり、貿易秩序の維持及び日本の経済の発展に大きな役割を果たしてきました。

税関では、安全・安心な社会を実現するため、不正薬物や拳銃等の社会悪物品の密輸取締りを行っています。近年、不正薬物の水際での押収量は年々増加傾向にあり深刻な状況が続いています。今後も大規模な国際イベントを控えており、水際でのテロ対策等にも万全を期し、国民の安全・安心を確保することが求められています。

税関はまた、徴税機関として適正かつ公平に関税等を徴収することや、貿易の円滑化を推進することも重要な使命としています。昨年(令和2年)には日英包括的経済連携協定およびRCEP(地域的な包括的経済連携)協定も締結され、更なる貿易の促進が見込まれることから、通関業務を行う税関に求められる役割はますます重要となっています。

世界の経済や社会活動のグローバル化が進み、平成元年(1989年)から令和元年(2019年)までの30年間で、貿易額は2.3倍、輸出入許可件数は5.6倍、訪日外国人旅客数は11倍となるなど、税関を取り巻く社会環境は大きく変わりました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や電子商取引の拡大に伴い、航空貨物の輸入件数が大幅に増えるなど、物流が我々の生活に直結し、税関も大きく関与しています。

関税局・税関は、財務省で物流に精通する唯一の組織として、今後も変化していく環境に対応しながら責務を果たし、国民の期待に応えていく必要があります。

密輸手段や物流の変化に適応するためには、普段からアンテナを高く保ち世の中の移り変わりをタイムリーに捉えることはもちろんのこと、前例に囚われない柔軟な発想が大切です。現在、税関ではAI(人工知能)等の先端技術を活用し、「世界最先端の税関」の実現を目指していますが、このように税関業務の高度化・効率化を進めていくためには、若く新しい考え方が必要になってきます。

また、税関職員は、関税政策や税関行政の企画立案及び税関の現場での執行のほか、他省庁等や在外公館・国際機関での勤務など、幅広いフィールドで活躍しています。多様な業務において、公への貢献に向けて柔軟な発想でチャレンジし、新しい時代をともに築いていく皆さんをお待ちしています。

世界最先端の税関を目指して

経済活動のグローバル化が急速に進む中、3つの使命を税関は果たしています。

税関の使命

1 安全・安心な社会を実現する。

銃器・不正薬物・知的財産侵害物品等の密輸を阻止とともに、我が国におけるテロ行為を未然に防止することにより「世界一安全な国、日本」を構築。

2 適正かつ公平に関税等を徴収する。

約9.2兆円すなわち国税収入の約14.9%に相当する額を徴収する歳入官庁として、適正かつ公平に関税等を徴収。

3 貿易の円滑化を進める。

国際物流におけるセキュリティを確保しつつ、民間企業との協力やIT化の推進などを通じ、通関手続を一層迅速化。

税関職員は、5つの行動指針に則って、3つの使命遂行に取り組んでいます。

税関職員の行動指針

- 誠実に行動し、社会からの信頼と期待に応えます。
- 誇りと使命感を持って、業務に取り組みます。
- 円滑なコミュニケーションを図り、チームで前進します。
- 改善意識を高め、日本と世界の変化に機敏に対応します。
- 自ら学び考え、プロフェッショナルとして成長します。

